

ラテンアメリカ二大国 ブラジル・メキシコ 1年半の通信簿

ブラジルではボルソナーロ大統領が 2019 年 1 月に、メキシコではロペス・オブラドール大統領が 2018 年 12 月に就任して 1 年半が過ぎた。二人の個性、政治信条はまったく異なるが、それぞれ頑なな政治手法による治政が、この難しいラテンアメリカの大国の政治、経済、社会の 3 つの視点からどのような変化をもたらしてきたかを、6 人の専門家が解明する。

ブラジル・ボルソナーロ政権の中間評価 —イリベラルな民主主義の行方

舩方 周一郎

はじめに

ブラジルとメキシコというラテンアメリカの二つの大国を比較することは、ラテンアメリカ研究に携わるものにとって長く関心を掻き立てられてきたテーマである。政治制度、広大な面積や経済規模、外交分野での世界的な注目度などから何かと比較されてきた両国は、域内で覇権争いこそなかったものの、互いにその存在を意識しつつ異なる発展を遂げてきた。この両国で 2018 年に実施された大統領選挙では、メキシコはロペス＝オブラドール、ブラジルはジャイル・ボルソナーロという特徴的な二人の指導者が選出された。両者は既存のエリート政治に対抗することで大衆層から支持をえた政治家として比

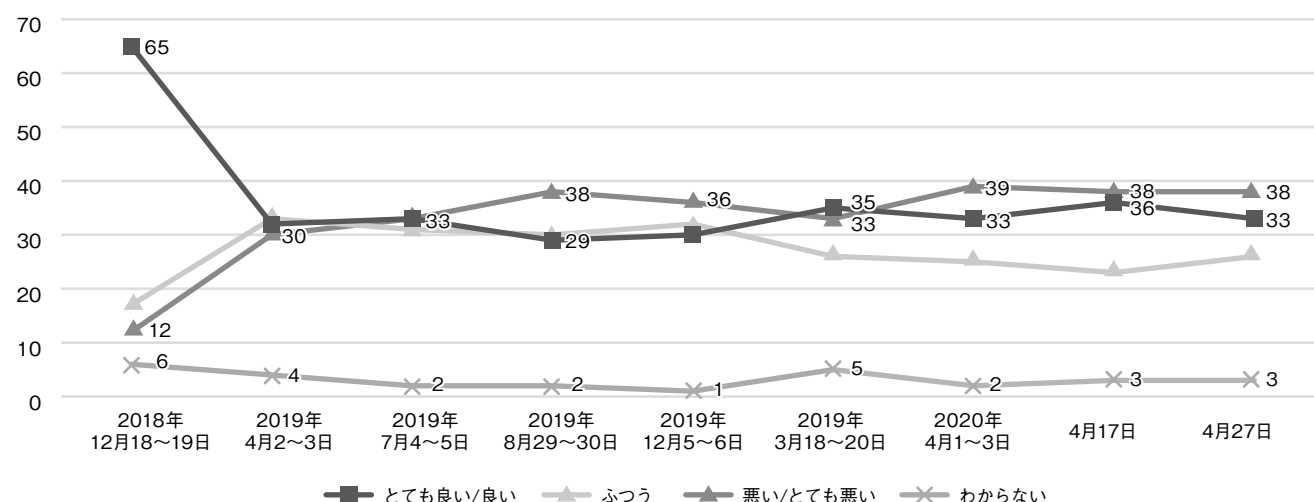
較されて紹介されることも多い¹。しかし、政権成立後における政治運営と評価は対照的である。本稿では特にボルソナーロ政権成立後の 1 年半をどのように評価できるかを政治運営から整理する。さらにオブラドール政権との対比の中で見えてくる一考察から、新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大によるパンデミック下での今後の政局への見通しを示す。

ボルソナーロ政権の評価基準

(1) 支持率の推移

ブラジルでは、2018 年 10 月の決選投票の結果、PSL（社会自由党）のボルソナーロが対抗馬の PT（労働者党）のフェルナンド・アダッジに勝利した。勝

図 1：ボルソナーロ政権の支持率の推移



出所：Datafolha 社世論調査を基に執筆者作成

因は、13年半続いた労働者党政権の政権運営と汚職スキャンダルへの不満からPTへの嫌悪感が増したこと、反汚職・治安維持への期待に加え、財政再建などの新自由主義路線を掲げて、既成政治に抜本的な変革を求める中間層・高所得者層の支持をくみ取することに成功したことなどがある。

2016年8月ルセーフ大統領の弾劾後に政治運営を担ったテメル前政権の移行期間を経て2019年1月1日に始動した現政権だったが、発足100日目の評価は民政移管後の大統領としては最悪の数字を記録した。但し、その後の支持率の推移は低空飛行を続け、選挙戦では日和見的な浮動票の多さが指摘されていたボルソナーロの支持には、一定の固定票があることが印象づけられた。そして1年を経た2020年1月の段階では、財界人・エコノミストらを中心に国内の社会分断と政治的な混乱が深刻な中であって、難しい政権の舵取りを迫られたという背景を考えれば、相対的には妥当な政治運営をしたと評価を受けており、その支持率も微増していた。

(2) 「イリベラルな」新自由主義改革の効果

政権1年を経過した時点で、ボルソナーロ政権がこのような評価された理由は、第一に前政権期から転換した経済回復の見通しを示していたことである。新政権の方針では、パウロ・ゲデス財務相の指揮のもとで財政悪化の改善に着手した。国の信用回復に向けて市場を開放し、外国からの積極的な投資を誘致する本格的な改革を断行した政府の試みは、国際市場から信用を得た。一方、教育・医療・環境・文化などの社会政策に関する公共事業の削減を迫るものとなった。現政権の立場からすれば、国家再建を最重要課題とする決断であったともいえるが、既得権益者らの対抗により改革にむけた長年の障害となっていた年金・税制改革・インフラ改善の取り組みは、一定の効果をあげた。対策にあたったゲデスの手腕のもとで政治的慣行や枠にとらわれない実利主義が功を奏した結果とも受け止められた。

第二に、治安と汚職問題の改善である。有力政治家を起訴するなど、一連の汚職捜査を指揮したセルジオ・モーロは、法務省と治安対策を統合した法務・治安相に任命された。モーロは犯罪防止法対策に尽力して、2019年度の犯罪件数は減少した。さらに汚職による閣僚辞職もなかったことを訴え、前政権期と比較して汚職根絶への期待も高まっていた。

なお政権の改革が可能となったのは、議会内で弱体化した野党側の左派勢力の存在も大きい。議会内では、左派の精神的な基盤を支えてきたルーラ元大統領に代わる新たな指導者の登場が期待されず、先の選挙で敗北したPTと、その急進的な方向性とは距離を置きたい左派政党との間での結束が分裂することで、政権が推進する改革に抵抗する力が弱まっていた。

一方で、政権の運営を、民主主義の基準から分析した場合、政権は発足当初より厳しい評価を受けてきた。世界各国の民主主義の度合いを示すV-DEM(多様な民主主義)研究所が発行する2020年度の報告書では、ボルソナーロ政権初年度にあたる2019年のブラジルは、インド・アメリカ・東欧諸国など20か国とともに、民主主義の質の低下ないし後退を示す独裁化(autocratization)の第三の波から、重大な影響を受けている国と指摘されている²。ブラジルの民主主義の後退の傾向は、特に自由指標の低下から示される。ブラジル国内では人権や平等を含む社会権や国際協調の軽視、学術・報道の自由への制限など、左派イデオロギーの排除を名目とした揺り戻しが表面化した。確かに民主主義の後退傾向は、前政権期から確認されたものだが、その傾向は現政権期に加速している。つまり、現政権が推進した「イリベラルな」新自由主義改革が、民政移管を経て定着したブラジル民主制度の根幹をも蝕んでいることがわかる。

コロナ禍下で急展開をむかえる今後の政局のゆくえ

(1) 急低下した支持率 — 避けるべき誤解

2020年3月頃から深刻化したCOVID-19の感染拡大とともに、政局は急展開を迎えている。COVID-19対策をめぐり、ブラジルはラテンアメリカ諸国の中ではメキシコと並んで初動対策が遅れた国と評価されている。詳しくは別稿に譲るが、今まで維持してきた支持率は急低下した。支持率低下の主要因となったのは、COVID-19対策に奔走したマンデッタ保健相の解任と、大統領の息子が関与した疑惑をもみ消すために連邦警察の人事に介入した疑義を理由に、政権人気を支えたモーロ法務・治安相が辞任したことである。

なお、ボルソナーロは、コロナ禍だけでなく大統領選挙戦やアマゾン森林火災の報道などでも「暴走する常軌を逸したブラジルの大統領」のように伝えられてきた。しかし過激な言動を証拠にボルソナー

口の言動をステレオタイプに押し込むことで、対象を単純化・矮小化することは、時として一方からの偏見を助長し、その真意や本質を見失わせてしまう³。特にモーロの辞任により、政権に汚職撤廃という正義を希求してきた支持者が離れたことでボルソナローの支持基盤は、軍政回帰を望む集団とキリスト教福音派が占めるようになった。保守層が多い福音派は科学的根拠より教義を重視する⁴。ブラジル人口の約3分の1が福音派となったとされる2020年現在、政治運営でも福音派の教義は無視できない。当然視されてきた規範的な観念を疑い、異なる他者の思考に歩み寄る姿勢とともに「経済開発を優先する政権」という単純な視点だけで捉えられないブラジルの社会文化的な背景に掘り下げた理解が必要となる。



写真：ボルソナロー大統領の弾劾を求めて抗議運動に参加している女性
(提供：朝日新聞社 撮影：岡田 玄サンパウロ支局長)

(2) 大統領弾劾の可能性 ―オブラドール政権との明暗

国内の社会的分断の厳しい状況下で登場した両政権だが、もともと両政権の安定性・不安定性は、発足当初から明暗が分かれていた。ブラジルの政党制度は分極化した多党制であるが、近年は主要3党が政党政治の主軸であった。ただしその3党も単独では十分な議席を獲得できず、法案可決には両院で議席の3分の2、憲法修正のために5分の3の承認が必要なため、大規模な与党連合が必要だった。いわゆるブラジルの「連立大統領制」という仕組みは政権の政治運営の安定性を生んだ半面、政権が議会運営で調整を迫られることで急進的改革をするのを阻

止してきた。ボルソナローは公式的な連立政権を形成せず、両院とも大統領政党一党のみで議席の過半数を得ていない少数政権を選んだ。その後、大統領は所属していた社会自由党と対立・離党して新たに与党 Aliança pelo Brasil (ブラジル同盟) を結成するとともに自身は無所属となった。

既存の政党政治に依存しない姿勢は、ボルソナローの新たな政治運営の特徴であった。同時にそれは大統領・議会関係で対立構図をうみ、潜在的には議会から発議される大統領弾劾が発生しうる状況を意味した⁵。経済の強引な自由化と不安定化、親族にまつわる汚職疑惑、大統領の責任能力が問われる現状は1992年のコロール大統領への弾劾請求から辞任までの過程に酷似する。三権への政治介入・越権行為が相次ぎ、大統領への求心力が低下する中で副大統領と下院議長の間で新政権にむけた連立の合意があれば、大統領弾劾の審査にむけた条件は揃う。しかしボルソナローは、議会内の最大勢力である Centrão (中道派政党連合) 所属の議員に行政ポストを配分するなどして弾劾阻止のために政党連立を画策する。既成政党と実利的な連立が行われない限り、大統領―議会関係の不安定性が続くブラジル政治の特徴を浮き彫りにしている。

一方、メキシコの政党制度も3党に収斂してきた多党制である。ただし大統領政党の MORENA (国家再生運動) と、PT (労働党)、PES (社会結集党) による与党連合 Juntos Haremos Historia (共に歴史を作ろう) は、上院で70議席(全議席の55%)、下院で314議席(全議席の63%)を獲得し、両院で過半数を確保している。一見すればブラジルのようにメキシコでもコロナ対応への悪評価と景気や治安の悪化で政権交代を求める機運が高まっても不思議ではない。しかし政権が現状のまま安定した議会運営を継続している限り、大統領弾劾の可能性は低い。

(3) 次なる政局 ―地方選挙の動向

ブラジル国内が混乱する中で注目は集まっていないが、2020年は4年に1度、市長(副市長)・市議会議員を選ぶ地方選挙が実施される年である。メキシコの地方選挙は3年に1度の実施という点で違いはあるが、同じく現政権への有権者の中間評価を図る意味合いもある。とりわけ今年は連邦制を採用するブラジルにあって、COVID-19対応をめぐり自律性の高い州知事・市長と孤立する大統領という構

図が鮮明になっており、有権者の評価は注目に値する。地方選挙の中でも、特にサンパウロ市長選は恒例の国政の代理戦争の様相をもつ。現状は次期大統領選への出馬も噂されるサンパウロ州知事ジョアン・ドリャから支援を受けて再選を目指す現職市長のブルーノ・コバス、現大統領の息子で連邦議員のエドアルド・ボルソナーロ、元サンパウロ市長で先の市長選と大統領選で敗北したアダッジが再出馬する三つ巴の戦いになると予想される。

しかし地方選挙が予定通りに実施されるかは不透明である。「三密」を防ぐために、通常の投票所での電子投票ではなく、Web 上にプラットフォームをつくるオンライン投票の実施も計画される。COVID-19 対策で選挙運動の一環である決起集会や街頭演説などにも制限が加えられるだろう。他方で、オンラインでの候補者討論会の充実化、議会での占有率により配分される選挙 CM 時間や政党交付金の額に左右されない公約発信の多様化は進み、インターネットという公共空間での競合行為がいかに選挙結果に影響を与えるかが選挙の見どころとなる。ただしオンライン上での選挙戦と投票を実施するためには、敵対候補者へのネガティブキャンペーンの過激化と虚構ニュースの拡散防止、有権者の倫理感を維持する適切なルール設定など、対策への課題は多い。

まとめ

国際秩序・規範がイリベラルなものと拮抗する中、ボルソナーロ政権はこの 1 年半で米国のトランプ政権の外交手法に追従することで、国際社会での生き残りをかけてきた。民主主義の価値を軽視しても、国家主権の強化を望み、経済基盤を安定させたうえで国内社会を守ることを求めた方針は、グローバル化した経済への依存から逃れられないブラジルの運命論的な姿でもある。他方で、ボルソナーロ政権が実施してきた諸改革は、むしろ社会経済格差の拡大と福祉医療など社会保障制度を摩耗して、結果として目標としてきた景気回復の見通しと分断社会の統合をも困難にした事実を見逃してはならない。対してグローバルな問題に対応できる国の相対的な強さ・弱さも浮き彫りになり、市民に見合った補償を提供できない国ほど、市民の抗議運動は高まっている。この状況下でブラジルとメキシコがともに経験している国家が混迷している責任の所在を、指導者の統率力の欠如やイデオロギーに転嫁する主張は容易に

可能だろう。しかし、両国の社会的分断の根本的改善と繁栄を望むのであれば、解決すべきは未成熟で安定しない政治制度がもたらしてきた構造的問題であり、国家のガバナンス力の強化に他ならない。

- 1 Bello, "The surprising similarities between AMLO and Jair Bolsonaro" Economist, 5th December 2020 (<https://www.economist.com/the-americas/2019/12/05/the-surprising-similarities-between-amlo-and-jair-bolsonaro>) 最終閲覧2020年6月8日。
- 2 V-DEM Institute Democracy Report 2020 "Autocratization Surges-Resistance Grows" (https://www.v-dem.net/media/filer_public/f0/5d/f05d46d8-626f-4b20-8e4e-53d4b134bfcdb/democracy_report_2020_low.pdf) 最終閲覧日2020年6月8日。
- 3 その演出を精査なく信用することは、時に反対派による戦略的な政権批判に安易に加担することにもなる。独善的な正義と憎悪は「なぜボルソナーロはそうした発言をするのか」、「支持者たちがボルソナーロに何を求めているのか」という思考を停止させる恐れもあり、切り取られた表面的な言葉の背後にある文脈と多角的な争点に冷静な理解が求められる。
- 4 ユニバーサル教会のエジル・マセードなどの監督牧師は、信者がミサへ参加できなくなることを理由に、州政府が提唱した外出自粛に反対を表明していた。Thomas Milz, "Evangélicos fazem coro com Bolsonaro e negam riscos do coronavírus," Deutsche Welle, 2th. April. 2020. (https://www.dw.com/pt-br/evangélicos-fazem-coro-com-bolsonaro-e-negam-riscos-do-coronavirus/a-53000050?fbclid=IwAR1Ghml9zV7pX9YEFrVEPiESwmCS_sQw8t0c0WLJqDvdx4l0g3fdvs08BA) 最終閲覧日2020年6月8日。
- 5 ブラジルの大統領・議会関係の詳細は、菊池啓一；「ボルソナロ政権下における不安定な大統領・議会関係」『ラテンアメリカ・レポート』36巻第1号p.1-12.を参照。

付記

地方選挙の実施日をめぐっては、第1回投票日を11月15日、決選投票日を同月29日に延期する憲法修正案が6月30日に上院を通過した。

今後、下院でも審議、通過すると採択となり、その他の各種選挙日程も変更となる。

(ますかた しゅういちろう 東京外国語大学世界言語社会教育センター特任講師)